

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門における 2014 年度の実施事業について

竹 内 章

(富山大学地域連携推進機構生涯学習部門長)

要旨：富山大学地域連携推進機構生涯学習部門事業において 2014 年度に実施した事業の概要を報告する。今年度公開講座の開設数は 71 講座、オープン・クラスの公開科目数は 815 科目であった。ここでは、本年度を通じて取り組んだ事業について概観する。



はじめに

富山大学では、国立地方大学の使命として教育、研究に次ぐ第三の柱に社会貢献を掲げ、各部署が様々な活動を展開しています。本学地域連携推進機構生涯学習部門は、その前身である富山大学生涯学習教育研究センターの発足（1996 年）以来一貫して大学開放事業の拠点組織としての役割を担い、大学開放事業の窓口として地域の生涯学習のニーズに積極的に応える事業に取り組む、幅広く学習機会を提供しています。

日本社会はいま、国際関係から国内の政治・経済・憲法問題に至るまで急速に変貌しつつあります。加えて現在は異常気象の極端化や地殻変動の活発化が目に見えて進行していることから、少子化と超高齢化が進む地域社会の営みもまた大きな変化を余儀なくされています。

こうした中で、地域社会における総合大学の果たすべき役割とは、地域とのコミュニケーションを図りつつ、社会の変化に対応できる総合的な知を提供することです。本学生涯学習部門には、広く大学開放の事業を展開し、あらゆる世代にとって学びがいのある豊かな生涯学習環境を構築していく使命を果たす責任が課せられています。この認識のもと、当部門では、大

学開放事業の基本を堅持しつつ、社会人の学びなおし、ボランティア人材育成、地（知）の拠点事業（大学 COC +）などの取組を推進しています。

2014 年度の事業では、公開講座・オープンクラス等の通常業務を着実に推進することに加え、富山駅前 CiC ビルでの富山大学サテライト講座 8 回、北陸地区国立大学連合協議会「まちなかセミナー」、ワークショップ「あなたの学びをその先へ」などを実施しました。

この 1 年間の生涯学習部門の取組を総括し、今後の事業展開を一層活発にする基本材料を報告するため、ここに生涯学習部門年報第 17 巻を刊行いたします。内容として、当部門が実施してきた平成 26 年度事業の概括、つぎに、当該年度の大学開放状況に関するデータ類「公開講座関係資料」および「大学開放懇話会関係資料」、地域連携ならびに大学開放に関する資料集となっています。

本書をご覧いただき、受講生の声を聴きながら学びをデザインし各種の企画を進めている当部門の姿をご確認ください。生涯学習を基礎にした地域づくり活動や本学の地域貢献について何なりとご意見・ご提案をいただければ幸いです。併せて、今後も当部門へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

1. 生涯学習事業

① 公開講座

本学は数多くの公開講座を実施しています。この事業は、本部門に設置された全学的な公開講座専門委員会で企画が審議・承認され、スタッフの大学開放に対する深い理解・協力のもとで実現されています。

ジャンルごとの開講数で見ると、教養講座で19コース、語学講座で28コース、体験講座で24コース、計71コースが企画されました。それぞれの受講者数（修了者数）をみると、教養講座で151名、語学講座で304名、体験講座で202名、合計657名になり、前年度よりも34名の増加となりました。このことについて当部門では、前年度財政上の理由から実施できなかった新聞へのチラシの折込みを、今年度は実施できたことの効果表れたと分析しています。

本学の公開講座は、一般市民の学習ニーズとうまくかみ合った企画であることから、多くの講座が例年恒例の形で（微調整・バージョンアップも伴いながら）実施されます。語学では、初級から中級にステップアップする講座が開設されています。他方では新しいタイプの講座も生まれています。2014年度は次のような多岐にわたる講座が新しく企画されました。

- ・ バルザック『あら皮』をフランス語で読む
- ・ 数と図形の楽しみ
- ・ 聴き手を動かす画期的なプレゼンテーションに挑戦してみよう！
- ・ 放射線と環境 他



極めて多彩なジャンル・レベル設定を備えた講座の数々について、ここで詳細に述べつくことはできません。しかし、多くの一般市民が受講していることや、本年報収録の受講生アンケートの結果をみると、大学の知的資源を地域社会に還元するという目的はおおむね達成できていると評価できます。

② オープン・クラス

オープン・クラスは、正規学生に対する授業を一般市民に開放する取り組みです。

2014年度のオープン・クラス利用は、受講希望者が延べ362人（前期204人、後期158人）、試聴等を経て実際に受講した者は延べ284人（前期155人、後期129人）にのぼりました。

開放科目数は前年度780科目から2014年度815科目となり、延べ受講者数も前年度より15名程度の減少でここ数年下がり続けています。

③ 講師等紹介

本部門では学外からの講演会・研修会等のための講師派遣依頼に応じて、本学教員の紹介をおこなっています。講師の選定とともに、企画段階でも学習（研修）プログラム作成に協力しており、2014年度は、本部門において、約35件の講師等の紹介を行いました。

なお、講師等紹介には本部門を経由せず、各学部申し入れて実施されているケースもあることをお断りしておきます。

④ サテライト公開講座

2014年度も8講座が開講され、総計784名の参加者が集まり、大変盛況でした。

平成26年度
富山大学サテライト講座

富山大学の教員がさまざまな分野について、わかりやすくお話しします。
各講座とも申し込み・受講料は不要ですので、お気軽にご来場ください。

受講料 無料 時間/14:00~15:30
定員/各講座とも50名程度(事前申込み不要、受講料無料)
会場/富山駅前 CICビル3階 学習室

「知りたい」をここから……
豊かな暮らしのために

第1回 5/24(土) 3Dスキャンの世界
芸術文化学部 准教授 辻合 秀一

第2回 6/21(土) 長生きの秘訣—身近にできるメタボ・糖尿病対策
大学院医学薬学研究部(医学) 教授 戸邊 一之

第3回 7/26(土) 地熱を使って、富山の夏を涼しく、冬を暖かく
大学院理工学研究部(理学) 教授 上田 晃

第4回 8/30(土) 学習・記憶の脳メカニズム
大学院理工学研究部(工学) 准教授 田端 俊英

第5回 10/4(土) 成長する企業の戦略と課題
経済学部 教授 内田 康郎

第6回 11/29(土) 「ニュー・ハリウッド」の幕開け
—アメリカ映画「卒業」(1967)を批評的に見る
人文学部 教授 藤田 秀樹

第7回 12/20(土) ケータイやインターネットにかかわるトラブルとその解決法は?
—子どもたちの間で今起こっていることから考える—
人間発達科学部 准教授 長谷川 春生

第8回 2/7(土) 体内時計を利用した治療(時間治療)について
—体内時計の異常による病気の発症から薬物治療まで—
大学院医学薬学研究部(薬学) 教授 藤 秀人

お問合せ先
富山大学地域連携推進機構生涯学習部門
TEL:076-445-6956 FAX:076-445-6033
ホームページ: <http://www.fcu.toyama.ac.jp> E-mail: lr@ipc.fcu.toyama.ac.jp



・まちなかセミナー

2014年10月18日(土)、北陸地区4国立大学連携のまちなかセミナーを開催しました。富山・石川・福井の各会場に相互に講師を派遣し合う取組みです。2014年度も、各会場でコーディネーターを採用し好評でした。富山会場は「薬物依存・薬物乱用の怖さ」と題して福井大・金沢大から講師を迎え、68名の受講者がありました。富山大からも福井・石川各地に講師として本学教員を紹介しました。

⑤ その他の講座・イベント

・コラボフェスタ 2014

2014年9月19日(金)、富山大学五福キャンパス内においてコラボフェスタ2014を開催しました。当部門は実行委員会に参加し、第3部では、ポスター「ワークショップに参加しよう!～参加・参画型学習に向けて～」を展示し、参加者と意見交換を行いました。

・ワークショップ

2014年11月15日(土)、富山県民会館において「あなたの学びをその先へ—「これからの学び」をワークショップでデザインする—」を開催しました。グループワークのなかで、「学んだことの「発表」の機会がほしい」など、今後に向けての指針が与えられました。

2. 学外との連携

① 平成26年度生涯学習推進懇話会

2014年2月12日(木)、多岐にわたる本部門の事業の成果や改善すべき点を把握するため、平成26年度生涯学習推進懇話会を開催しました。なお、1999年度開催の第1回大学開放推進懇話会からの通算では16回を数えます。

② 全国協議会

2014年9月8日(月)～9日(火)にかけて、第36回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会において、意見交換を行いました。2014年度の当番大学は鳥取大学が担当しました。

③ 北陸地区大学間連携

2015年1月22日（木）に金沢大学サテライトプラザ（於金沢市）において、富山大、金沢大、北陸先端科学技術大学院大、福井大の各大学スタッフによる専門委員会が開催され、2014年度まちなかセミナーの反省・次年度の企画について意見交換がなされました。

3. 広報・出版活動

① チラシによる広告

公開講座、オープン・クラス、サテライト公開講座について、前年度財政上の理由から実施できなかった、従来行っていた新聞へのチラシの折込みを、今年度は実施しました。加えて、富山市、高岡市を中心にした地域で、各種学習施設や公民館等に配布依頼を行いました。

このほか、DMの形でパンフレットを郵送し、また各地でチラシ、ポスターの配布を行いました。その他の事業についても、事前に募集案内を作成し、県民カレッジや各地の公民館等に配布しました。

② 出版物

- ・公開講座、オープン・クラス、サテライト講座チラシ及びポスター
- ・オープン・クラス募集要項
- ・「生涯学習部門年報」第16巻

③ メールやWebを利用した広報活動

- ・メールマガジン

メールマガジンは、おおよそ450人に対し概ね月1回のペースで発信し、80号を数えた。

- ・Web

大学開放に関する情報発信として随時Webサイトを更新するとともに、フェイスブックを開設している。

